

健康

健康相談

日時 6月2日(金)午後1時30分～3時
場所 保健・福祉合同庁舎

内容 血圧や体格(体重・体脂肪率、体年齢)などの測定、尿検査
※禁煙相談、生活習慣病予防の栄養相談は、保健師や管理栄養士が相談に応じます(要申込)。

離乳食講習会

保育士・看護師による保育もあります。
日時 5月26日(金)午後1時30分～3時30分

場所 保健・福祉合同庁舎3階(受付2階)
対象 生後5～8カ月頃までの子どもと保護者(対象児には保育あり、保護者のみ参加可)

定員 10組(要申込、定員になり次第締切)
参加費 2000円

申込・問合せ先 健康推進課
電話 072-433-7000

犬・猫へのマイクロチップ装着

◆マイクロチップ装着の義務化

動物の愛護及び管理に関する法律が改正され、令和4年6月からペットショップやブリーダーなどの犬猫販売業者は、販売前に犬・猫へマイクロチップを装着し、環境大臣が指定する指定登録機に登録することが義務付けられました。



マイクロチップを装着・登録することで、災害、事故などで離ればなれとなっても、飼い主の元に帰ってくる可能性が高くなります。まだ装着されていない飼い主は、かかりつけの動物病院に相談してください。

◆飼い犬登録手続きのワンストップサービス
4月から、マイクロチップを装着した飼い犬を指定登録機に登録すると犬監札代わりとなり、市への申請は不要となりました。

5月は「ギャンブル等依存症問題啓発月間」

ギャンブル等依存症とは、ギャンブルなどにのめり込むことにより日常生活や社会生活に支障が生じている状態をいい「本人の意思」や「性格」は関係なく、誰でも依存症になる可能性があります。



この機会に、「ギャンブル等依存症問題」について理解を深めてみませんか?
詳しくは、ホームページをご覧ください。
問合せ先 大阪府地域保健課
電話 06-6944-7524

消防



住宅防火いのちを守る10のポイント

- 4つの習慣
1 寝たばこは絶対にしない、させない。
2 ストープの周りに燃えやすいものを置かない。
3 コンロを使うときは火のそばを離れない。
4 コンセントはほこりを清掃し、不必要なプラグは抜く。
6つの対策
1 万が一火災が発生しても被害を抑え人命を守るために、日頃から6つの対策をとりましょう。
① 火災の発生を防ぐために、ストーブやコンロな



どは安全装置の付いた機器を使用する。
② 火災の早期発見のために住宅用火災警報器を定期的な点検し、10年を目安に交換する。
③ 火災の拡大を防ぐために部屋を整理整頓し、寝具・衣類・カーテンは、防炎品を使用する。
④ 火災を小さいうちに消すために消火器などを設置し、使い方を確認しておく。
⑤ 高齢者や身体の不自由な人は、避難経路と避難方法を常に確保し備えておく。
⑥ 防火防災訓練への参加や戸別訪問などにより、地域ぐるみの防火対策を行う。

応急手当を学びませんか?

私たちは、いつどこでケガをしたり、病気になるったりするかわかりません。大切な家族や友人が突然倒れたりケガをした時、落ち着いて適切な応急手当ができませんか? 心臓や呼吸停止の場合、応急手当は1秒を争います。もしもの時のために、応急手当の方法を学びましょう。原則10人以上のグループのかたを対象に行っていますので、詳しくはお問合せください。
問合せ先 消防本部警備課
電話 072-422-9203

高齢者のメンタルヘルス

問合せ先 貝塚市医師会
電話 072-423-4130

2022年に65歳以上の高齢者は、日本では総人口の29.1%になりました。世界第2位のイタリアは24.1%です。今後も日本は総人口が徐々に減少し、高齢者の割合は増加するようです。また80歳以上の人口も増加しており9.9%になっています。今後ますます高齢者が健康に過ごせる社会が必要となってきます。

一般的に高齢になると身体の衰えや退職、子どもの自立による役割の縮小、離別・死別による身近な人間関係が乏しくなるなどの喪失が多くなり、心配不安などメンタル不調に傾きやすいと言えます。意欲の低下や憂うつな気分となるうつ病は、高齢者ではイライラしたり落ち着かない焦燥感や体の症状をいろいろと訴えることや、不安や心配が目立つこともあります。また病気が回復した後でも、ぼんやりしていたり、じっとして活動が少ないことが続く時には、軽い意識障害であるせん妄があるかもしれません。物忘れのみられる認知症をはじめは不安を訴えたり、抑うつ、活動の低下がみられたりします。

元気がない、ぼんやりしているなどいつもと様子が違うことが続くときには、治療で回復できるものかもしれませんので、気軽に医療機関に相談してください。

ほっ スピタル・かいづか

(59) チーム医療と地域包括ケアシステムの推進に向けて

問合せ先 貝塚病院
電話 072-422-5865

市立貝塚病院では、がんの診断から治療、緩和ケアまでを担う大阪府のがん診療拠点病院として、がんのトータルケアを担っています。特に婦人科がんや乳がんなど女性特有のがん診療において、高度かつ先進的な医療を提供できるよう「チーム医療」を推進しています。チーム医療とは、医師だけではなく看護師(※)や多職種が、患者さんを中心として、それぞれの専門性をもとに高い知識と技術を発揮し、かつ協働して、その人らしい生活を実現するための医療です。

また、国が推進する地域包括ケアシステム構築にも取り組んでいます。限られた医療資源を地域全体で活用するため、令和3年4月には「つなげて・支えよう貝塚コスモスの会」を発足。近隣の病院・訪問看護ステーション・ケアプランセンター・施設・医療介護院などの看護管理者との定例会を月次で開催し、顔の見える関係を構築しました。各施設における課題や解決策を検討・共有することで、利用者やそのご家族の利益を追求しています。医師だけではなく多職種によるチーム医療が必須であること、また病院だけで完結するのではなく、地域全体においても患者さんの背景を理解しつつ、様々な関係機関が連携し、安心して暮らせることを目指すべきと考えています。

地域の中核病院として急性期医療を担いつつ、ときには関係機関の調整役として、今後も当院の役割を果たすことに邁進していきます。
※現在当院では約250人の看護職員(非常勤含む)があり、うち15人が専門・認定・特定看護師として勤務しています。院内で組織されたがんサポートチームはじめ、認知症ケア・褥瘡(じょくそう)対策・感染対策・排尿ケア・糖尿病サポート・栄養サポート・術後疼痛管理などの領域で活躍しています。相談窓口も設けていますのでぜひご利用ください。

副院長兼看護局長 西野万寿子

募集 三館等合同施設整備事業基本計画書(案)パブリックコメント

ひと・ふれあいセンター、やすらぎ老人福祉センター、青少年人権教育交流館の三館と東共同浴場の各施設を合築する三館等合同施設整備事業を進めています。この基本計画案について市民のみならずご意見を募集するパブリックコメントを実施します。ご意見は、個人情報を除きホームページなどで公表することがあります。

閲覧・募集期間 5月19日(金)～6月9日(金)
閲覧場所 ひと・ふれあいセンター(日曜除く)、山手・浜手地区公民館(水曜除く)、市ホームページ
※視覚障害があるかたは、お問合せください。

提出方法 住所・氏名・電話番号・意見を記入し(自由様式)、郵送(消印有効)・ファックス・メール・持参で

◆意見交換会(申込不要)
日時・場所 ①5月23日(火)午後7時～8時:ひと・ふれあいセンター ②6月4日(日)午前10時～11時:青少年センター講座室
提出・問合せ先 〒597-0083 海塚22-1 ひと・ふれあいセンター
電話 072-422-7523、FAX072-433-4604
Eメール hitofureai@city.kaizuka.lg.jp